



学校・家庭・地域の協働で「あいさつの習慣化」を！

毎朝、校門に立っておりますと、「おはようございます」と進んで元気な挨拶をし、そして、校門一礼をして爽やかに登校してくる山中生。本当に素晴らしい習慣が身についていると感心しています。また、校内でも、挨拶や返事がよくできており、いつ社会に出ても大丈夫ではないかと思う生徒がいます。しかし、中には、朝から機嫌が悪いのか、習慣化できていないのか、挨拶の声が聞き取れない生徒がいるのも事実です。

さて、ご家庭での挨拶はどうでしょうか。地域の中での挨拶はどうでしょうか。「いつでも、どこでも、だれにでも」の挨拶ができていますでしょうか。

現代の中学生で最も課題となっているのが「人間関係構築力の育成」だと言われています。人間関係を構築するには、まず、挨拶を交わさなければなりません。予測困難な社会の中で、相手の話をしっかり聞いたり、尋ねられたことに適切にきちんと答えたりする力が求められます。ぜひ、学校・家庭・地域が協働して、まずは、すべての生徒に挨拶の励行を心がけさせていきましょう。よろしくお願ひします。

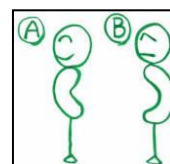
心づくりは姿勢づくりから～立腰教育の薦め

立腰（りつよう）という言葉をご存じでしょうか？これは、明治時代から大正時代に活躍された教育者（哲学者）の森 信三さんが提唱されました。

立腰とは、腰骨を立てること。二足歩行を始めた人間にとって、腰骨を前に出し、おしりを突き出した姿勢は、実に自然体です。下の図のAのような姿勢は、見た目にも美しく、内臓を圧迫することはありません。このことは、椅子に腰掛けたときも同様で、成長期である生徒の背骨や内臓に悪影響が出る可能性が高まり、姿勢の悪さは、視力にも影響が出ることとなります。

森先生は、立腰の効果として、次の10点を提示されています

- ① やる気がおこる
- ② 集中力がつく
- ③ 持続力がつく
- ④ 頭がさえる
- ⑤ 勉強が楽しくなる
- ⑥ 成績も良くなる
- ⑦ 行動が俊敏になる
- ⑧ 内臓の働きがよくなり健康的になる
- ⑨ 精神や身体のバランス感覚が鋭くなる
- ⑩ 身のこなしや振る舞いが美しくなる



立腰教育は、学力向上健康の維持につながります。ご家庭におかれましても、子どもたちの姿勢に目を向けていただくようお願ひします。

